

研究フォーラム

「多様な言語文化背景をもつ子どもたちのリテラシー発達 -3つの調査報告から-」

日本の公立小学校で学ぶCLD児の 二言語リテラシーの発達 -中国語母語話者児童の縦断研究より-

2014年3月30日(日)

於：早稲田大学 22号館202教室

大阪大学大学院言語文化研究科

日本語・日本文化専攻

真嶋潤子



研究の概要

- ・ H24-28年度科研費基盤研究(B) 課題番号24320094「外国人児童生徒の複数言語能力の縦断的研究-何もなくさない日本語教育を目指して-」
代表：真嶋潤子
- * 研究目的：日本で増加するCLD児の全人的で健やかな発達を目指した言語教育のあり方を考えるに際し、家庭で育んできた母語を無視または軽視して日本語を教える「減算型バイリンガル」の姿勢でなく親から継承している母語を大切に保持発達させながら「何もなくさない日本語教育」がどのようにすれば可能なのか考えるための基礎資料を提供すること。
- * 調査の概要：大阪府下の公立小学校に通う中国にルーツを持つ児童を対象に、横断的かつ縦断的な二言語会話力・読書力調査を実施し、言語能力とともにアイデンティティの発達にも着目している。これまでの対象児童は88名。うち44名には二言語能力評価、うち19名には複数回評価。
- * 本日の発表：児童Kの2言語の伸びとアイデンティティを報告

2言語発達の成功事例：

日本生まれで自然習得でバイリテラルになった事例

- ・ 4年間の縦断的調査よりバランスバイリンガル(バイリテラル)が育ってきている事例報告
- ・ 場所：大阪府下の公立小学校 中国帰国者の集住地区 学校全体の2割が中国ルーツ、うち9割が日本生まれ・幼少期来日
- ・ 時期：2009~2013年 [2009年(1年生)、2011年(3年生)、2013年(5年生)]
- ・ 対象：中国人女兒1名 (K児と呼ぶ)

<調査方法>

2言語での1対1 対話型発話・読書力アセス メント

OBC(CAJLE 2000)

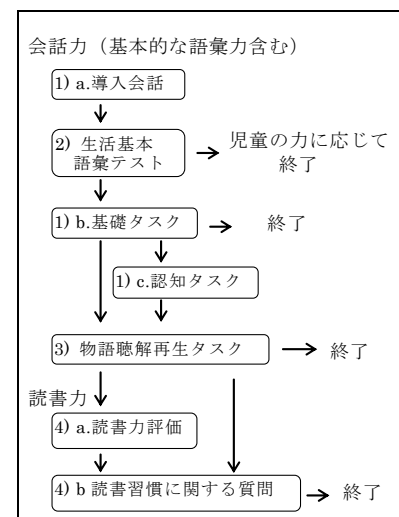
+

B-DRA-J(中島・櫻井 2012)

/B-DRA-C(ウリガ・櫻井 2012)

縦断研究：

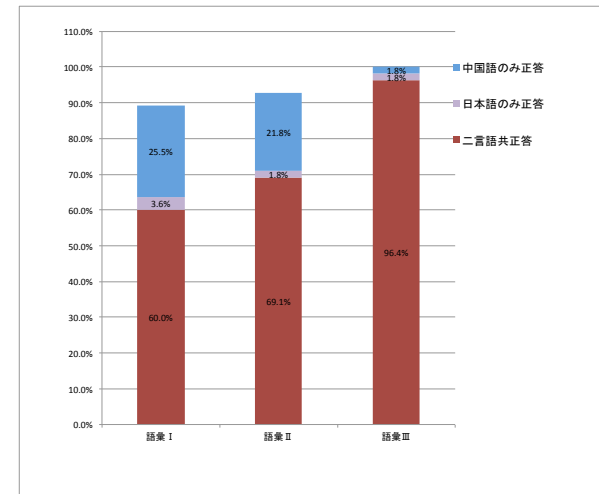
1、3、5年次に調査
(’10.2./’11.6./’13.5.)



K児について

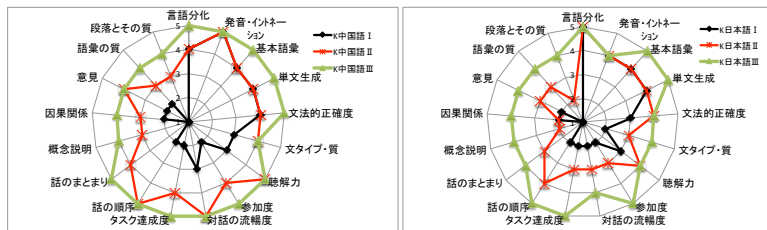
- 日本生まれで中国籍（中国帰国者の縁者）
- 両親は中国人で日本語は苦手
- 家庭での会話は中国語
- 家庭には本があまりない
- 小1の時 「ダブル・リミテッド」状態が心配された
- 日本語も中国語も不十分で中国語は読めなかった
- 担任「何を言っているのかわかりにくい」

K児の語彙テスト結果の2言語比較



K児の中国語の伸び

K児の日本語の伸び



K児の学び方

- * 家庭での中国語による会話の基盤
- * インターネット上の中国語のテレビドラマや漫画を毎晩のように視聴
- * 字幕から文字を習得
- * 中国語のドラマの台詞を聞いて文字を覚えることを繰り返した
- * 自らテレビ番組を選び、5年生になってからは、意識的に学習（熟語等）
- * 自律学習による自然習得
- * 1年生から5年生の間で、多くのCLD児が失っていく母語の読書力を獲得

K児の2言語習得から学べること

- ・ 母語ができるようになることは、日本語学習を阻害しない。(日中それぞれのモノリンガル話者児童と比較すると語彙力、文法の正確さにおいて劣っているかもしれない。しかし行間を読み取ったり多角的に物事を考える思考力は二言語ともに年齢相応かそれ以上に発達している。
- ・ 音から入る(音声言語から文字言語へ)こと(好きなテレビドラマを字幕付きで毎日見たこと) → 「活字へのアクセス」(カミンス・中島 2011)
- ・ 相当なインプットの量と質。言語使用の社会的文脈(言語使用の適切性)も学んでいること。
- ・ 大人が長い目で見る(「早く」「正しく」言わせようとしな) → マイペースの自律学習
- ・ 子どもに必要なこと:心理的な安定と自信 → 自己を尊重し認める(自尊感情) → やる気が出る → 日本語学習に前向きに取り組める <時間がかかることを大人が受容する>
- ・ 励ますこと :母語ができることは「素晴らしいことだ」というメッセージを送り続けること <精神的なサポート>
- ・ 「何もなくさない日本語教育」へ

今後の課題

- ・ 学校やクラスが「自信をなくすところ」「劣等感を植え付けられるところ」「母語をあきらめさせられるところ」にならないように。
- ・ (数年後に2言語話者に成長できるよう)努力している児童生徒への励まし。(母語の尊重。バイリンガルの肯定)
- ・ 活字(本でもパソコンでも良い)へのアクセスを増やすこと → 2言語リテラシーが身につけば強い
- ・ 保護者(やその母語話者)の協力を得て、母語の読み聞かせや多読を支援。読んだ本について話す+再話を重視。(保護者は自信のある言語を使用)
- ・ 日本語だけを見て「ことばの遅れ」「学力の低迷」と問題視するだけでなく、2言語の発達(習得)度のアセスメントを行う → テスターの研修

参考文献

- ・ ウリガ・櫻井千穂(2012)「中国語版読書力評価ツールの開発」真嶋潤子編著『平成21—23年度科学研究費補助金報告書(基盤研究(C)課題番号:21610010)』大阪大学大学院言語文化研究科
- ・ カナダ日本語教育振興協会(2000)『バイリンガル会話能力テスト0BC』カナダ日本語教育振興協会(CAJIE)
- ・ ジム・カミンス著 中島和子訳著 2011『言語マイノリティを支える教育』慶應義塾大学出版会
- ・ 川上郁雄 2007「『移動する子どもたち』と言語教育—ことば、文化、社会を視野に」佐々木倫子他編『変貌する言語教育—多言語・多文化社会のリテラシーとは何か』くろしお出版、pp.85-106.
- ・ 川上郁雄 2011『『移動する子どもたち』のことばの教育学』くろしお出版
- ・ 中島和子 2010『マルチリンガル教育への招待—言語資源としての日本人・外国人年少者』ひつじ書房
- ・ 中島和子・櫻井千穂(2012)『対話型読書力評価』平成21年度—平成23年度科学研究費補助金「継承語日本語教育に関する文献のデータベース化と専門家養成」(基盤研究(B), 研究課題番号21320096, 研究代表者中島和子)
- ・ 真嶋潤子・櫻井千穂・孫成志 2013「日本で育つGLD児における二言語とアイデンティティの発達—中国語母語話者児童K児の縦断研究より—」『日本語・日本文化研究』第23号 大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻 pp.16-37
- ・ 文部科学省「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm
- ・ 文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受け入れ等に関する状況調査(平成24年度)」の結果について http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/04/1332660.htm

ご清聴ありがとうございました。

<jmajima@lang.osaka-u.ac.jp>